

平成27（2015）年度（前期）学校経営の重点目標及び重点的取組等

学校名 中津市立今津中学校

学校長氏名 池永正博

○ 学校経営方針の背景

課題1. “少子・高齢化、問題の内、少子問題は『日本のあり方』に大きな影響を与える問題である。
特に、15才未満の子どもの数は、昭和57年から34年連続で減少し約1617万人である。
また、総人口に占める15才未満の子どもの割合が12.7%と昭和50年から41年連続で低下している。
さらに、平成26年10月1日現在、15才未満の子どもの割合が都道府県で最も高かったのは沖縄県で17.5%、最も低かったのは秋田県で10.8%であった。なお、大分県のそれは12.8%で九州最下位である。

課題2. “平成23年度までの間、14年連続・自殺者3万人以上、問題の後、現在も年間3万人を切っているものの、年2万7千人前後で推移しており大きな問題である。
この事実に鑑み、まずは「物事を死をもって変えようとする態度」（自殺した小学生の両親の言葉）を身につける必要がある。
また、現在、40代を中心とした“社会的引きこもり”も見逃せない問題である。

課題3. “海外大学に挑戦する日本人学生や日本の大学を選択する優秀な海外大学生”の減少問題がある。

○ 学校経営の背景とした課題に対する 学校で意識・実践すべき克服策

克服策 『日本のあり方』や“地域の有り様（ちいきのありよう）”を考え、実践できる人づくりが最も重要で急務である。[時事問題への興味]
また、結婚年齢に関する法令や“卵巣の状態”を考えた「速すぎず・遅すぎない性」について啓発する場を小学校高学年・中学校・高等学校の保健分野等で設定して行く必要がある。[スキヤモンの発育曲線]

克服策 まず、『自分の「命」が世代を超え引き継がれてきた事実』を実感できる場や『個人や集団の誇り意識の高揚』を図る場の設定が必要である。また、『自分の強みを知ったり、強みをつくる』場の設定が必要である。これらを通して、自己肯定感や自尊感情を醸成できる。

克服策 いわゆる『グローバル人材』の育成は勿論、『国と国の架け橋となる人材』の育成が急務である。
そのためには、社会科の内、特に、公民の分野などを通して、国の仕組みや世界の情勢を学ぶ場を多く設定する必要がある。
併せて、“世相や時事問題”等に興味を持つ生徒の育成や『本や新聞を読む家庭・地域づくり』が必要である。

◎ 貴校の下記の内容について、ご記入下さい。

1. 学校教育の目標

自分の進むべき“道”を自ら切り拓くことのできる生徒の育成 一凡事徹底・凡事特流—説明：徹底と個性や特色のある学校づくりの意

2. 重点目標

- ①主体的進路選択力の向上→未来を見据え「見通しを持ち、本当に行きたい高校など上級学校や就職先を主体的に選択、受検し合格できる力」など“進学力”をつけさせる。併せて、それを“説明できる力”を養成する。
- ②個人や集団の誇り意識の高揚→高みを目指し、くじけず・あきらめず何事にも挑戦し、所属する組織に貢献できる“強くしなやかな人間力”をつけさせる。併せて、それらを“つなぐ力”を養成する。
- ③健康を求める態度の育成→「スキヤモンの発育曲線」や「WHOの『健康』の定義」を理解し、生涯にわたり「行動体力・防衛体力」を意識した、自ら『健康』を求める態度をつけさせる。併せて、それを“伝える力”を養う。

3. 重点目標・達成指標・重点的取組・重点的取組通過点（到達イメージ）・取組指標

重点目標	達成指標（表れた結果や姿）	重点的取組	重点的取組通過点（到達イメージ）	取組指標
主体的進路選択力の向上	自分の選択した進路について、その理由を説明できる生徒80%	○授業改善→個に応じた指導の徹底を図る	・自学ノートの記載内容が充実した生徒が5%増加	※毎週、学年会議などを持ち、各生徒の変容等を確認する
	自分の選択した進学先に合格できる生徒80%	○家庭学習→習慣化を図る（長期休業中の手引き）	・天声人語の提出率5%上昇 ・漢字テストの平均2点上昇	※毎日、学年主任等が提出物チェックと助言を行う
	さらなる高みを目指し、自ら必要な情報の取得に動く生徒80%	○情報発信→進路選択情報を知る場を設ける	・進路選択に関する資料や講話に興味を示す生徒5%上昇	※毎月、管理職等が進路情報発信状況を把握し、指導する
個人や集団の誇り意識の高揚	自分や学校及び地域には良いところや誇れるところがあると言える生徒70%	○生徒指導3機能を生かした授業改善を図る	・自己決定・自己存在感・共感的人間関係等の育ちが見える会話をする生徒5%上昇	※毎月、教務主任等が生徒指導3機能チェックリストを活用した検証を実施する
	お年玉や各種プレゼントの一部として、図書カードや図書券等を子どもに贈った家庭10%	○自分の“強み”を知る場やつくる場を設定する	・1分間スピーチを照れず行う生徒5%上昇	※毎日、1分間スピーチに取り組む等、挑戦の場を設ける
		○徹底した広報を行う	・図書券等をもらった生徒の出現（各クラス1～2名）	※HPや各種便り等に載せる（公民館だよりにも掲載を依頼）
健康を求める態度の育成	WHOの「健康の定義」を言える生徒70%以上	○授業・短学活や各種便り等で周知徹底する	・「身体的・精神的・社会的に良好な状態」と回答する生徒5%上昇	※毎学期、健康定義の定着状況をアンケート等で確認する
	スキヤモンの発育曲線に関し、その概要を説明できる生徒70%	○授業や外遊び等を通じ体力の向上を目指す	・昼休みに外遊び等をする生徒25%	※体育授業を中心に運動場面を増やす※《1校1実践など》
	健康を維持・増進するための努力をしている生徒70%以上	○家庭との連携を通じ生活習慣の確立を図る	・テレビゲームやスマホなどをする時間が1日2.5時間以上の生徒が0%	※早寝・早起き・朝ごはん等について各種通信、懇談、授業等を通じ定期的に啓発する